

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170201792		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 東苗穂館 (1階ユニット)		
所在地	札幌市東区東苗穂8条2丁目13番10号		
自己評価作成日	平成25年12月16日	評価結果市町村受理日	平成26年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170201792-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケア理念にある入居者様の喜びと希望にあふれた暮らしを支えるサービスを第一に、法人理念にある地域から愛され信頼されるホームを目指し、町内会、小中学校、保育園など地域との交流を積極的に行っています。年間行事の夏祭り、敬老会、クリスマス会などには町内会老人クラブの方を招待しています。特に夏祭りでは町内会の回覧板、町内へのチラシ配り、地域の学校への案内等で、広く地域の方に開かれたホームである事を知って頂けるよう開放をしています。毎年近所のご家族様や子供たちが沢山立ち寄って下さっています。その他にも学校や町内会の催し物に招待されたり、子供たちが歌やお芝居などを披露しに来館されたりと交流を続けています。ご近所への散歩時には挨拶を交わし、花壇の花などを頂くこともあります。東苗穂館開設以来9年が経過し、入居者様の重度化の進行に伴い看取りを前提とした介護にも取り組んでいます。医療関係者とホームとの連携、ご家族様との十分な話し合いのもと、入居者様にとって終の棲家として頂けるよう、個別に事情が許す限り看取りができる体制を整えています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 1 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念に謳われている、高齢者の喜びと希望溢れる笑顔作りと地域福祉の発展に貢献しようとする姿勢が、職員の日常の支援の中に顕著に覗き知ることができます。7つの項目のケア理念も常に初心に帰った振り返りが日常的に行われています。また、利用者や家族との対話、職員間の気付きが「気付きシート」の添付により、問題の提起や質疑など様々で広範囲な問題解決に利用されています。さらに、シートの利用により事故を未然に防止する「ひやりはっと」にも大きく影響しています。法人では職員のスキルアップに最大限の支援を行っており、外部研修の出席や資格取得のための便宜を図りながら、職場シフトをカバーするため、本社に「エリアサービス課」を設けて3人の支援職員によるシフトの保全を行なうなど配慮されています。法人が力を入れている災害対策も、消防署の支援を得ながら年4回もの避難訓練を実施し、単に回数をこなすのではなく、如何に冷静かつ緊張感を持って対応できるかの訓練が続いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は各フロアに掲示されており、個人ネームの裏にも記入されている。理念より抜粋し月の目標に掲げ実践している。また一日の終わりに確認し振り返りを行っている。	7つの項目からなるケア理念は、日常のホームでの暮らしの中で十分活かされるよう、いつも初心に返っての確認が行われています。また、毎日のテーマとして取り上げて、各自が振り返り確認を行い、理念を身近なものとしながら実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大きな行事である夏祭りや敬老会、クリスマス会では地域の方を招待し、消防訓練では協力体制が整えられている。また、町内会主催の茶話会や近隣の小中学校や幼稚園、保育所との交流が盛んに行われている。	「地域と共生し、社会に貢献する愛される企業でありたい」とする法人理念は、ここ東苗穂館でもしっかりと実践され、町内会の事業、また、近隣の小中学校、幼稚園など幅広い交流に活かされ継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホームの行事に地域の方々も参加して頂き、認知症についての講習を通じて理解を深めて頂いている。入居相談やホームの見学に訪れた方にもホームの特徴や、認知症についての説明や特性、アドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催して、日々の入居者様の様子や行事等をスライドショーにてご覧頂いている。町内会やご家族様より、積極的に防災訓練や感染症対策等の意見交換があり、サービスの向上に活かしている。	町内会の理解の下、会長始め婦人部長、地域包括支援センター職員、家族等の出席による内容の濃い会議の様子が議事録から視えます。特にホームの様子をスライドで見えていただく、また、時々テーマを変えながら魅力ある会議への努力が見られます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と生活保護受給についてやおむつサービス等、必要に応じて連絡や相談し、助言して頂いている。	市の担当窓口とは主に本社対応が多く、介護保険や生活保護に関する連携が行われていますが、今後は区役所担当者とも協力関係が図れるよう連携に努めることとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内社外研修に参加し、職員は正しく理解している。入居者様はホーム内で自由に過ごされている。夜間以外は玄関は施錠しておらず、自由にどなたでも訪問して頂いている。	度々の研修の受講により、身体拘束のないケアへの実践が行われていますが、マンネリ化に陥らないよう常に省みることでホーム全体として身体拘束のないケアの実践が継続されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内社外研修には積極的に参加し、各職員にも伝達講習をカンファレンスの場や日頃のケアの中で正しいケアの在り方について話し合っている。職員同士の信頼関係を築き、何でも話し合える環境作りを進め、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護や成年後見制度の研修などに参加し学ぶ機会を持っている。ご家族様から相談があった場合や、入居相談時に必要があれば支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は重要事項の説明を本社職員・管理者が行い、介護計画の説明を管理者・介護支援専門員が納得の頂けるまで説明している。また契約後も随時相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃来館された時や介護計画更新時に要望などを訪ね、アンケートや家族会、運営推進会議等で意見を聞き、看取りを含めた医療サービスや歯科、リハビリ等の外部サービスへ反映させている。また議事録の公表等をしている。	利用者と共に暮らす日常の中からの気づき、年1回の家族会、ケアプランの見直し時、また運営推進会議を利用した家族との触れ合いの中から家族が抱く意見や提案など利用者や家族の心の声を聞きながらサービスに反映すべく努めています。職員にあっては些細な情報も「気づきシート」を利用して共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善点や気づいた事など職員の意見は随時聞き取り、早期対応が必要な事項はその場で判断している。詳細な検討が必要な事項は代表者もカンファレンスに参加して管理者や職員の意見を聞き、検討し運営に反映している。	職場の中にあつて、職員は忌憚のない意見交換が明るい雰囲気の中で交わされています。「気づきシート」に表われた些細な事柄も代表者、管理者などで構成する「ワーキング委員会」で検討されるなど、組織全体でサービスの質の向上に向けた姿勢が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修には会社負担で学ぶ場を設けられており、職員はスキルアップの機会を与えられている。資格取得等を推奨し、資格がある者は手当が支給され向上心を持って働ける様、環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やスタッフ研修等の内部研修や他の外部研修にそれぞれが積極的に参加している。また職員は一人一人ケアでの現場において都度管理者やリーダー、本社ケアアドバイザーよりアドバイスやトレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区内の管理者連絡会をはじめとする、会議に出席し交流を深めて、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された1か月間は、ご本人の不安や要望を反映したケアプランを作り、職員はそれに基づいた考えや対応で関係を築いている。ご本人のお話に耳を傾け安心出来る様支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談以降何度も相互に訪問し、面談を重ね信頼を得た上での入居となっている。困って居る事不安な事を常に話し合い、関係作りに努めている。入居後も連絡を取り合い確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の要望を頻繁に聞き取り、サービスに活かしている。医療機関、リハビリ、歯科等の専門機関とも連携し、ご本人の必要な支援を見極め、相談、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩として尊厳を持ち接し方に気を付けている。生活上にて常に行動を共にして、掃除、調理、後片づけの中で感謝の気持ちを伝えている。アクティビティでは職員と入居者様が一緒になって楽しんでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて近況報告を行っている。行事の日程をお知らせし、参加を募っている。遠方より参加されているご家族様もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪れた方も含め他入居者様と共に楽しい時間を過ごされている。行事にはたくさんの方が参加されている。	ホームの行事開催には、利用者の家族、知人にも案内して参加をしていただき、慣れ親しんだ間柄の継続に努めています。家族と相談しながら新年の初詣やお墓参りも積極的に支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のアクティビティや行事での関わりの他、おやつの中には談笑しアットホームな関係が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りや入院等で退去された方は、その後何度もホームに足を運んで頂いている。必要があれば相談にのる事を常にお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新時や日々の生活の中で直接ご本人に確認したり、ご家族様の意向の把握をしている。困難な時はカンファレンスの場や日々の中で意向について検討している。	職員は利用者と共に寄り添う暮らしの中から、利用者の思いや意向の把握に努めています。担当する職員に限らず些細な情報も「気付きシート」に添付し、職員間で情報の共有とサービスに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族様からの情報、またご本人より日常生活の中から意向をくみ取り把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや各々の職員の関わりの中でその日の様子を把握し、それぞれの方に合った家事や生活の支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者やケアマネージャー、他職員も含めカンファレンスや日々の申し送り等で意見やアイデアを求めている。またご家族様や医師その他の関係機関にも意見を求め、現状に即した計画を作成している。	担当職員などの日々のケース記録は、ケアプランの見直しに反映できる記載が多く見られ、カンファレンスでの検討が適切に進行されています。近年は利用者の重度化の進行に伴い家族、医師との相談事項も多くなりケアプランにも大きく影響しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録は介護計画に沿って実践され、その結果を残している。1ヶ月に1度のモニタリングやカンファレンスの席上やアセスメントにて見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にご本人の様子を確認したり、要望があった時には対応している。外出の機会を設けたり、職員やボランティア、他の施設の交流において柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会からのお誘いには必ず出席し、交流を図っている。防災訓練や運営推進会議、ホームの行事を通して近隣の皆様の助けを頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族様の意向を踏まえ、医師と納得のいくまで話し合い、方針を決定している。24時間電話相談、往診に対応して下さり、看取りも含めて支援している。	日常の暮らしの中で体調の維持には、かかりつけ医への相談、看護師との連携などに努めています。また、重度化や終末期を迎える利用者には、家族と医師との頻繁な相談や往診を受けるなど連携を密にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、本社の看護師が訪問し入居者様の健康状態についての情報の共有をし、対処法や医師との連絡を相談している。他の訪問看護ステーションの看護師とも良好な関係を築いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院医師をはじめ各関係者やご家族様とは都度確認を取り相談や情報交換を行いながら、早期退院に向けた話し合いが円滑に進むように努めている。また入院期間中、可能な限り面会に行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や面会時にその時の様子を確認して頂き、重度化の場合は対応や方針の同意を書面にて頂いている。医師と連携しご家族様と共に方針を共有し重度化や終末期支援についての支援をしている。	入居時には医療連携に伴うホームとしての方針の伝達に加え、重度化や終末期に至った時点での家族、医師との会合を頻繁に行いながら、看取りを含めた方針と共有に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。いつ起こるか分からないその時に冷静に対応できるように努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回昼間や夜間想定で防災訓練を行っている。その方法を消防はじめ町内会や近隣住民、職員で共有して冷静に対応出来る様努めている。	法人として特に細心の配慮を講じている災害時への対応は、地域の住民の方々の協力、消防関係者の理解により年間で4回もの避難訓練を実施して万全を期すよう取り組みが行われています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには十分注意し、常に人生の先輩としての尊敬を持って関わっている。研修やその場で指導を行う等、プライバシーへの配慮を徹底し対応している。	難聴の利用者も増える中、耳元でのそれとない声かけでトイレ誘導が行われています。また、入浴への支援も利用者の人格やプライバシーを損ねない配慮が継続して行われています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を日々確認し、自己決定して頂いている。また職員はその思いを受け入れ、ご本人が納得されるまで、行動を共にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状態に合わせて起床時間や食事の時間など柔軟に対応している。アクティビティなどもその方のペースに合わせて参加頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必ずご本人様の希望を聞き、その日の洋服を自分で選び着て頂いている。毎日化粧されている方もいる。また訪問美容にてカットや毛染めを定期的に出る様支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所で調理を手伝い、盛り付けやテーブル拭き等、様々な手伝って下さる。食事前には口腔嚥下体操にて、さらに美味しいと感じて頂く様に支援している。	本社の管理栄養士による献立は、食材のバランスに優れており、各ユニットで調理された食事でも楽しい雰囲気生まれています。利用者は下拵え、食卓の準備、下膳、食器洗いなど、これまでの暮らしの継続として出来ることへの参加をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立のもとバランスの取れた食事を提供している。水分量は1日1000～1500ccを目処に提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを個別に支援している。訪問歯科の指導を受けながら口腔ケア管理を実施している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間やご本人の様子、トイレに行きたいとの声を受けて、パターンをつかみ、トイレでの排泄を行っている。	職員は、利用者の一人ひとりの特性を把握し、プライバシーに配慮しながらトイレでの自力排泄に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分量、牛乳、ヨーグルト等の乳製品等を利用して便秘対策の支援をしている。また医師にも指導を受けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿って温度や時間等ゆっくり楽しめる様に支援している。職員との1対1の会話も楽しみの一つと話される方もいる。今後近くの大衆浴場に出掛ける予定もある。	利用者一人ひとりの希望や体調を把握しながら、入浴でリラックスした時間を過ごせるよう配慮し支援をしています。また、希望により近隣の大型浴場にも出かけてストレス解消を兼ねた支援もしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に沿い、習慣になっている就寝時間を守り支援している。またお昼寝時間も設けており、希望に沿ってソファや居室で休まれている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は医師や薬剤師の指導を受け、一人ひとりがどのような薬を服用しているかを理解している。往診時や普段の様子から症状の変化を見極め、医師と連携し支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活の中で各個人が発揮できる、茶わん拭きや掃除等の役割を持っている。張り合いや楽しみ事を個別に対応し、生き活きとした生活を送っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出レクを支援している。入居者様の希望を集約し場所を決定している。また普段はご家族様や職員と共に散歩や近くのスーパーで買い物を楽しまれている。	夏季では日常的な近所の公園散歩やコンビニ、スーパーでの買い物など、ホームでの閉じこもり防止に努めています。冬季間も厳冬期は除きますが、外出レクリエーションによりストレスの解消と体調維持の支援が行われています。外出の様子など「菜の花便り」に掲載して家族に情報を提供しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お店やスーパーに行く時は個人の財布を用意して、買い物を楽しんで頂き、その方の力に応じたお金の使い方を支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様には定期的に電話にて連絡を取り合い、その時に必ずご本人にもお話しして頂いている。書ける方には手紙を書いて頂き、書類等の送付と共に送っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾は入居者様と職員が関わり作成して飾り、居心地良く過ごせる様に季節に応じた、花や観葉植物を飾るなどの工夫をしている。	職員が自ら磨き上げた廊下や居間、居室などは清潔感に溢れているなど、常に清掃への気配りで快適な共用空間が保たれています。壁には利用者と職員で作られた装飾品や笑顔溢れる写真など、訪問した家族などの足を止めています。冬季間の乾燥をできるだけ防ごうと湿度保持への対応が懸命に行われています。2階のユニットでは利用者の状況を見ながら植物などの配置も今後検討することとしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが見られるソファで他入居者様と一緒に過ごされたり、食席でうたた寝される方もいて共用空間の中でも思い思いに過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはご本人の使い慣れた、なじみの椅子や家具、家族写真などが至る所にあり、ご本人の居心地の良い空間で過ごせるような工夫をしている。	利用者の寛ぐ居室は、使い慣れた家具などの持込による賑やかな居室と、持込が少ないシンプルな感じのする居室など様々ですが、収納庫の活用により居室の整理が行き届いて居心地の良い空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の設備の方向や、居室前にはご本人の名前を大きくわかりやすく表示している。入居者様の移動の安全のため家具や備品の配置、各居室内では特にふらつきのある方の動線に沿った配置を工夫している。			